

廣峯ものがたり（六月）  
牛頭天王と蘇民将来

### 「おもてなしの心」

六月三十日は夏越の大祓の日。廣峯神社の境内には、茅で作られた大きな輪が置かれる。この大茅ノ輪は、人が立つてくぐれるほどの大ききで、少し涼しくなりはじめると午後四時、夏越の大祓・茅ノ輪神事が行われた後に参拝者らがくぐりはじめます。この茅ノ輪神事は、半年間の罪穢れを祓い、無病息災を祈願するお祭りです。牛頭天王（素戔嗚尊）の故事に由来しているそうです。その昔、牛頭天王は妻を娶るため南海へ旅をしました。その旅の途中で裕福な巨旦の家に宿を求めました。汚れた姿を見た巨旦は嘘をついて宿泊を断りました。その後、蘇民将来の家に行くとき、快く招き入れられ、貧しいながらも粟飯にて、心温まる精一杯のもてなしを受けました。



妻と子を得た牛頭天王は、帰る途中に再び村にやっけてきて、嘘をついた巨旦一族を疫病にて滅ぼしてしまいます。そして、「おもてなしの心」を示してくれた蘇民将来には感謝し、茅ノ輪と蘇民将来の子孫の御神符を持たせ、疫病（災厄）を除けることができると教えられたのが、このお祭りの始まりだそうです。

この蘇民将来を祀る地養社が本殿の西側にあり、輪をくぐった後に、災厄除祈願に参拝される方も多く、『蘇民将来子孫・七難即滅・七福即生』の魔除け輪守を受けられています。